

平成29年度 第2回八王子市多文化共生推進評議会議事要点録

【日時】

平成29年6月30日（金）午後6時45分から 8時45分まで

【場所】

中心市街地活性化スペース（ファルマ802）

【出席者】

評議員
森茂座長、遠藤評議員、河西評議員、シュレスタ評議員、谷川評議員、館山
評議員、児野評議員、ドミー評議員、マダウラ評議員

事務局

市民活動推進部 小浦部長、多文化共生推進課 浅岡課長、櫻井主査、柳沢

主任、阿部田主事

【欠席者】

岡林評議員

【公開・非公開の別】

公開

【傍聴人】

あり（1名）

【配布資料】

評議会次第

資料1 多文化共生推進プランの取り組み状況（平成25年度～28年度）

資料2 産業データ

1 開会

《資料確認》

2 部長挨拶

《小浦部長挨拶》

3 報告事項

事務局

・資料1を用いて報告（新規及び充実事業を中心に報告）

評議員

- ・東京都の全学校でオリンピック・パラリンピック教育を進めているので、全体として増えている。
- ・表の読み方を教えてほしい。「新」と書いてあるものは28年度に始まったものか？

事務局

・そのとおり。

評議員

・充実^{じゅうじつ}は、どのような評価指標^{ひょうかじひょう}を使って充実^{じゅうじつ}と判断^{はんだん}しているのか？

事務局

・何か変更^{へんこう}を加えてプラスα^{くわぶらす}で行^{おこな}っているもの。たとえば学校教育^{がっこうきょういく}の場合^{ばあい}では、今まで^{いま}30時間^{じかん}の学習支援^{がくしゅうしえん}に対して、支援^{しえん}の時間^{じかん}を50時間^{じかん}に増やす^ふなどの変更^{へんこう}を加えると、充実^{じゅうじつ}と判断^{はんだん}している。

評議員

・充実^{じゅうじつ}を意味する矢印^{いみ}が30年度^{やじるし}、31年度^{ねんど}など、これから実施^{ねんど}する年度^{じっし}に付いているがどういふことか？

事務局

・今後^{こんご}、充実^{じゅうじつ}を予定^{よてい}しているということ。28年度^{ねんど}までは実績^{じっせき}。29年度^{ねんど}以降^{いこう}は、予定^{よてい}を記載^{きさい}している。

評議員

・他に意見等^{いけんなど}はあるか？

・無いようであれば、次の意見交換^{つぎ いけんこうかん}に入ります。

4 意見交換

評議員

・意見交換^{いけんこうかん}に入る前に、前回の評議会^{はい まえ}において、事務局^{ぜんかい}に提示^{ひょうぎかい}いただきたい資料^{じむきょく}があった。事務局^{しりょう}より資料2^{しりょう}についての説明^{せつめい}を求め^{もと}る。

事務局

・資料2^{しりょう}を用いて報告^{もち ほうこく}

評議員

・ただいまの説明^{せつめい}について、質問等^{しつもんなど}はあるか。

評議員

・八王子^{はちおうじ}では、2人^{ふたり}に1人^{ひとり}が市内^{しない}で働^{はたら}いている統計^{とうけい}があるが、平成22年^{へいせい}の数字^{ねん すうじ}となっている。下の統計^{した}を見ると、2010年^{とうけい}以降^{ねんいこう}に変化^{へんか}がみられているが、この統計^{とうけい}については平成22年^{へいせい}以降^{ねんいこう}の变化^{へんか}はあまり無い^なという認識^{にんしき}で良い^よのか。

事務局

- ・この統計データは、国勢調査のものである。昨年度の国勢調査の結果が、2日前に公表されたため、まだ追えていない。今後確認の必要がある。

評議会

- ・次第の多文化共生施策について意見交換に進みたいが、議事次第に4つのテーマの記載がある。留学生支援については、前回の評議会でも少し意見交換がされたため、他の3つのテーマについて、主に意見交換をしていきたい。
- ・まずは、外国人観光客に対する課題、今後の対応等について意見交換をしていきたい。

評議員

- ・外国人観光客（MICE）とある。高尾山には観光客が来ると思うが、それ以外にイベント等、MICE関連で訪れる人はたくさんいるのか。それとも、まだあまりないのか？

事務局

- ・現状では、イベントはたくさん行っているが、近隣の方が来るイベントが中心。外国人観光客が見込めるイベントでは、八王子まつりやいちちょう祭りなど、祭り関係が該当すると思われる。
- ・MICE を記載した理由は、市保健所がある場所と繊維試験場跡地において、数年後には都が会議、イベントが開催できるコンベンション施設の整備を計画している。これをふまえ、観光協会を観光コンベンション協会に名称を変更するとともに、その対策を検討しているところである。どちらかと言えば、これからの施策となるものである。

評議員

- ・八王子ではまだそれほど目ぼしい箱はなく、イベントでは、お祭りを開催しているということか。

事務局

- ・多摩地域では、昭島にあるくらいで箱ものはほとんど無いのではないだろうか。23区ではビッグサイトなど大きな施設がある。そのような施設が、八王子に建設される計画となっている。
- ・補足の説明となるが、配布している資料で Hachioji Free Wi-Fi は昨年度から始めたもの。中心市街地の活性化を目的に始めたもので、英語、中国語、韓国・朝鮮語に対応している。ログインの際の説明やチラシ裏面の店舗情報なども多言語対応をしている。これが充実してくれば比較的使用できるものになるのではないか。作成当初から多言語対応しているのはこれまでにあまり例がない。

ひょうぎいん
評議員

- ・ピクトグラムについての記載があるが、観光においてはとても重要なものである。富士森体育館などは取り組んでいるようであるが、今後具体的に取り組んでいく方針があるのか。

じむきょく
事務局

- ・市では、公共施設マネジメント基本方針を平成27年10月に作成している。市の施設に限られているが、基本方針として、「公平な利用機会の確保」というものがある。そこで、ユニバーサルデザイン、多言語案内表示等に対応した施設整備を進めるとの記載をしている。ピクトグラムに関しても、体育館の工事のなかで整備した。

ひょうぎいん
評議員

- ・以前、外国人観光客が温泉のマークが分からないということもあったが、ピクトグラムはどういった基準のものか。

じむきょく
事務局

- ・そこまでは分からない。

ひょうぎいん
評議員

- ・今後はそのような基準も大事になってくる。

ひょうぎいん
評議員

- ・そのピクトグラムの整備などは市の施設のみということだが、今後民間施設等に広げる施策などはないのか？

じむきょく
事務局

- ・現状、そのような施策は聞いていないが、東京都では、オリンピック・パラリンピックに向けてピクトグラムや多言語化について方針を示しているため、それに基づき、鉄道やバスなどの対応も進んでいく予定になっている。なお、JR八王子駅周辺については、オリンピック・パラリンピックに向けての多言語対応の重点整備エリアになっており、多言語化を進めていく予定である。

ひょうぎいん
評議員

- ・Wi-Fi は中心市街地活性化の関係で設置されたと聞いているが、中心市街地だけではなく、例えば、高尾山などの観光施設では進めていく予定はあるのか？

事務局

- ・今のところ聞いてはいない。

評議員

- ・TAKAO599ミュージアムではWi-Fiはあるが、対応言語は日本語だけとなっている。

事務局

- ・その他に京王電鉄も整備している。

評議員

- ・海外に行った際、Wi-Fiが利用できる現地の情報調べることができて便利だ。多くの人が利用できるようになれば、八王子は便利で良いと思ってもらえる。

事務局

- ・通信業界は変化が激しいため、状況も変わる可能性がある。成田空港などでは、外国人観光客に対しWi-Fiの使い方などを周知している。今後の動向を確認しながら八王子市でも対応していく必要があると思う。

評議員

- ・八王子国際協会に来る観光客との問い合わせの多くは次の2つである。1つは、「どこへ行けばWi-Fiが使えるか」という質問。以前はJR八王子駅周辺のWi-Fi環境が全く無かったので、このような取り組みが進み、良い環境になったと思う。
- ・もう1つは病院の問題。何科に行く必要があるのか、どこに病院があるのか、外国語が通じるかどうかという質問が多い。
- ・他に、観光ビザに関する相談がある。

評議員

- ・Wi-Fiは簡単にアクセス出来るかどうか重要。外国人の友達が都内で接続しようとしたが、非常に難しいとのものであった。パスポート番号などたくさんの情報の入力が必要であったようだ。八王子のものはチラシを見る限りは簡単そうに見えるがどうなのか。

評議員

- ・成田空港では何も情報を入力しなくても接続できた。モバイルのパソコンを接続した際などでは、選択するのみで利用できた。八王子のものもほぼ同じようなものに見える。

評議員

- ・観光客についてだが、外国人観光客を増やすこととオリンピック・パラリンピックに向けたものと2つのうちどちらの目標なのかははっきりさせないといけない。外国人観光客を増やす目標を掲げるのも、オリンピック・パラリンピックに向けてか、今後の八王子の観光のためかをはっきりしたほうが良い。

事務局

- ・単にオリンピック・パラリンピックに向けた目標ということではなく、オリンピック以降もどのように継続させていくかが重要。オリンピックはあくまできっかけであり、それ以降も継続するよう施策を考えていく必要がある。

評議員

- ・政策を作る側はそうかもしれないが、受け取る側はオリンピック・パラリンピックのこののみ考えてしまうこともある

事務局

- ・オリンピック・パラリンピックは、あくまできっかけでしかないとの認識をしている。

評議員

- ・八王子では創価学会などの宗教関連施設や富士美術館には外国人がたくさん来ていた。外国人観光客を増やしたいのであれば、そういった施設などとの連携も必要ではないか。宗教関連の関係者は多く、一度に来日する人数の規模も大きいと聞いているため、上手く連携が出来れば、効果があると思う。日本の法律では、政治と宗教の関係は大変難しいと思うがいかがか。

事務局

- ・創価大学や美術館には留学生を含め、外国人がたくさん来ているのは知っているが、観光客という捉え方は市ではしていないと思う。宗教関連施設以外に市内観光をしている話はあまり聞かない。都内を観光している印象がある。

評議員

- ・八王子がどの程度PRを出しているかが気になる。
- ・八王子には何があるのか、何を食べられるのか。友好交流都市だけでなく、もっと広くPRしたい。高尾山だけでは、登山に興味が無い人は来ない。私たちが知り合いに紹介できるような情報が欲しい。

事務局

- ・一般の外国人と同様で、個別に対応していない。創価大学ともやり取りがあるが、資料が欲しいと言われれば、一般に配布しているものを提供している。他の大学等も同様。

評議員

- ・高尾山は有名になったからもう心配ないと思っている。そのほかにも、市内には見どころがたくさんあると気づいた。外国人観光客は、東京を2日くらい観光し、箱根や大阪など他の地域に行ってしまうイメージがある。観光団体と連携して、モデルコースを作れると良いのではないかと同時に、お土産の整備も必要である。高尾山周辺に観光施設が整備されたほか、まちなかには郷土資料館がある。城跡もとても素晴らしい。色々あるのだから高尾山だけではもったいない。

事務局

- ・外国人の方が八王子に来るパターンは2つあると思う。日本に住んでいる外国人の方と成田空港に到着し、京都など西に向かう途中で来る観光客の方。前者については、地道な情報発信の継続が必要となる。後者については、3、4年前に杏林大学から話があり、移動途中で八王子に泊まる外国人観光客がたくさんいると気づいて、市に話があった。現状、深夜に着いて、翌朝早くに出発してしまうため、その時間では観光が出来る場所がほとんどない。例えば、ホテルなどを起点に観光ツアーを組むなどは次のステップとなるのではないだろうか。もう1泊していただける価値を見出してもらわなければならない。

評議員

- ・先日、新聞の1面で八王子が紹介されており、知り合いが「良いところだ」と言ってくれた。SNSなどでもどんどん発信する必要がある。国内での消費も限界に来ているため、外国人に八王子でも消費してもらおう必要もある。

事務局

- ・高尾山については人が来ているので、観光課はその次として滝山周辺のPRに力を入れ始めている。
- ・今年、続日本100名城に滝山城が選定された。八王子城跡はもともと日本100名城に選定されている。海外の方にも城好きがいる。不便な場所だが外国人観光客少しずつ来ているとの話もある。

評議員

- ・バス会社の情報では、高尾の山奥ではバスが増便しているところもあり、観光客が自力で行くようになっている。

ひょうぎいん
評議員

- ・多摩センターの京王プラザホテルでは外国人の数がすごい。サンリオピューロランドにやって来ている。そこまで来ているのだから、もう少し奥に来てほしい。

ひょうぎいん
評議員

- ・八王子にも魅力がたくさんあるのだから、それはもったいない。

ひょうぎいん
評議員

- ・たくさんの人に来てもらっては困るという意見もある。八王子は都内のように集中型ではなく散在型であり、あちこち散っている観光施設が小さいため、あまりに多くの観光客が来ると、地元の人がケアしているものが無くなることもある。そのような弱さもあるため、先ほど市から2パターンがあるとの話があったが、前者の日本に住んでいる外国人の方にも期待するのは賛成。しかし、外国人の観光の行動には懸念面もある。例えば、SNSで外国人に有名になったが、やってくる人は写真だけ撮って、すぐに次の場所へ行ってしまうという例も聞いている。観光スポットをどれだけたくさん見学し、記念写真をとるかに焦点を当てている人もいるため、必ずしも地元の人が期待しているような観光の仕方としてはしてくれないのではないかと心配は残る。

ひょうぎいん
評議員

- ・外国人観光客と多文化共生意識の啓発で、港区の助成金を使っているNPOのグローバルファミリーズという団体がある。家族で来る観光客と日本人家族をマッチングさせ、1日プレイデートさせるもの。年齢が近い家族を数ヶ月前から調整してマッチングさせ、観光や交流をしている。それを高尾山でも同年代の子どもたちを対象にマッチング、観光をさせることができないか。市内の子どもたちにも外国人に直に触れる機会にもなる。楽しいとも思う。

ひょうぎいん
評議員

- ・時間にも限りがあるため、次の外国人の地域参加について意見はあるか。
- ・ネパールやベトナムの方のネットワークなどはどうなっているか。

ひょうぎかい
評議会

- ・Facebook上で色々やっているが、なかなか難しい。長く住んでいる人はいいが、日本に来てみたが、国に帰ってしまう方が多くいるとコミュニティがバラバラになってしまう。
- ・フィリピンの方々のコミュニティはたくさんあるため、それをまとめることは難しい。
- ・国際協会では、母国のことを話していただけないか、イベントがあるので参加できないかなどを声掛けしているが、都合が合わず参加される方が少ない。現状、ベトナム語の翻訳では依頼できるのがドミーさんだけ。1人だけではなかなか時間が合わないこともある。世界の人とふれ

あいつタイムや国際交流フェスティバルなどイベントでも同じ人に何度もお願いすることになる。みんなそれぞれ生活があるので、自分の時間を使ってやってもらおうと続かなくなる。外国人の方で社会参加を積極的にしたい人でも、いつでもやれるわけではない。どれだけ多くの人が参加してくれるのか、また、参加の場をどれだけ提供できるのかが課題だ。外国人の中にも社会参加をしたいという人もいれば、忙しくてそんな余裕はないという人もいる。そのような状況のなかで、お互いがいい状態にならないと参加してもらえない。

・我々が知っている外国人は、国際協会まで来る人、日本語教室に参加される方で、時間や生活にある程度余裕のある人が多くなる。そういった人たちでも、時間や都合を100%合わせて参加することは出来ない。今日やったことを明日からすぐに実践ということが難しい。多文化共生意識の啓発などは、地道に進めていくしかない。

評議員

・外国人の地域への参加というが、外国人にもそんなに余裕はないと思う。日本人がどの程度歓迎してくれるのかという問題もある。日本も少子高齢化社会になり、外国人との協力も必要となっていくのだから、外国人の社会参加を受け入れていこうとなり、お互いにコミュニケーションを取っていかないと社会参加を進めるのは難しい。

評議員

・地域参加は、場所、時期によって様々な活動がある。外国人の年齢、興味、必要性などによって求めるものが違う。八王子市で受け入れることが出来る地域参加はどのようなものがあるのかを示す必要がある。日本人が本当に受け入れてくれるのかも重要。

・例えば、子どもが学校に入れば、PTAがある。PTAは参加者全体に共通の関心があるので日本人側にも受け入れやすい。

評議員

・一番身近なものは自治会の参加だが、市は外国人の加入率を把握しているか。

事務局

・自治会の加入率は把握しているが、外国人の方の加入については把握していない。基本的には、自治会から提供いただくものを集計していることや、個人情報との関係があることから把握が出来ていない。

評議員

・日本に来たばかりの人、7人くらい、日本人30人くらいとの交流に参加したことがある。日本の良いところ、変なところを言ってもらった際には、日本人が気付かないこともたくさんあった。地域の交流を増やし、外国人の視点、気持ちを日本人が分かってくれば、受け入れやすくなるのではないか。

- ・イベントは平日であったが、土日であれば、もっと多くの方が参加出来たかもしれない。こういうイベントには日本人の方にたくさん来て欲しい。
- ・自治会に加入しなさいといってもいきなりは難しいと思う。ブラジル、マレーシアから来て、子どもがいて、日本語をある程度話せる人がいるが、習慣などは分からない。「自治会」という字は読めても、それがどういうものか分からない。自治会に加入しましょうという考え方も良いが、色々なスタイルや考え方などがあって良いと思う。

評議員

- ・自治会の代表として言えば、自分の町会において、市認定の法人になろうとした際に、同じ町内に住んでいる人の半分の人々の署名をもらえれば法人に認定される要件があった。65%の賛同をもらえたが、外国籍と思われる人は3組だけ。戸建て住まいのインドの方には直接勧誘のお願いをし、加入してもらった。他の2組は、マンションが出来た時の約束として、全員加入しているので、本人は町会に加入していることをわかっていないかもしれない。戸建てに引っ越しをされて来る方については、外国籍である等の情報を把握出来るが、集合住宅は出入りもあるので把握が難しい。
- ・町会加入促進ののぼり旗は都の補助金で作ったもの。オリンピック・パラリンピックの関係で補助金が出た。小さいのぼり旗は不動産業者に配っている。町会自治会連合会と不動産会社で契約して、新しく来られる方にはなるべく町会に入るように案内をすることになっていて、組織率も上がっている。その中で、上手く外国人の方にも案内が出来れば良いと思う。

評議員

- ・加入率が増えたのか？

評議員

- ・町会自治会連合会の会議の中ではある程度増えたとの報告があるが、どのくらい増えているのかは分からない。

評議員

- ・自治会に加入するだけでなく、防災や地域の清掃などに外国の人が参加することが大切である。

評議員

- ・私の地域の町会では、市全体で取り組む清掃デー、お祭り、餅つき大会などがあるが、基本的には会員を対象として行っている。町会費で運営していくため、会員以外には案内を出していない。お祭りに関しては、経緯は不明だが、大学生が先生同伴のもと、4人くらいが山車引きに参加している。参加しているのは日本人だが、中心市街地には山車が19ほどあるため、市内の大学と連携すれば、留学生を入れるなどして外国人の方にも参加してもらうことは出来るかもしれない。

評議員

・イベント参加は日本文化に触れるもっとも良い機会だ。

評議員

・地域参加は、町会・自治会や各イベントに参加することという考えで良いのか。

評議員

・身近なところではそうだ。

評議員

・私は、UR（都市再生機構）の団地に住んでいるが自治会も何もない。

評議員

・基本的にURはビル単位で町会をつくると聞いているが。

評議員

・特にない。

評議員

・ある町会長に聞いた話では、URの建物が出来た時にURにお願いに行ったが、今まで自治会に入ったという記録はないため断られたとのこと。いつ時点の話なのかわからないが、そのような話があった。

事務局

・加入のお願いに行った時に、日本人と外国人で反応に何か違いはあるか？

評議員

・特に違いはない。一律に聞かれるのが、どのようなメリットがあるのか聞いてくる。みんなまず考えるのは「大変なことは何か？」ということ。PTAなども同じだが、役員をやるのが大変との考えを持っている。町会費は月々数百円であり、それほど大きな負担にはならないと思う。

・役員をやるのは大変との話がある。自身の町会には約250世帯あるが、それを25の班に分ける。その班ごとに2年ごとに班長を決める。どうしても班長をやるのが大変な、例えばお年寄りしかいない世帯は飛ばすなどの対応もしているため、班長はそれほど大変でもない。しかし、町会の役員となると引いてしまう人がいる。

・良いところというのは、災害が起こったときに町会で備蓄しているものもらえると伝えているが、そんな事態は滅多にないと言われる。

ひょうぎいん
評議員

- ・災害時に加入している人から備蓄しているものを優先的に配布するのか？

ひょうぎいん
評議員

- ・建前上は、町会費を使って買ったものなので、会員に配布しなければおかしい。自分の町会では、万が一の際には、避難場所の小学校に町会の備蓄品を運ぶ想定をしているが、災害時に「あなたは町会に入っていないからあげません。」とは言えない。ホソネとタテマエの違いがある。

ひょうぎいん
評議員

- ・加入したくても町会そのものがないところは災害時に大変だ。

ひょうぎいん
評議員

- ・自主防災組織を作れば、市からの支援があり、アルファ化米や乾パンなどに支給を受けることも出来る。町会、自主防災組織が無いところでは、いざというときに自分たちでは何もできず、市を頼るしかない。

じむきょく
事務局

- ・多くの地域では町会自治会が結成されているため、そこが母体となって自主防災組織を結成している。町会自治会が無いマンションなどは、管理組合などが自主防災組織を作っているところもある。
- ・東日本大震災以降、町会・自治会が無くても防災対策は必要との声があり、自主防災組織を結成し始めている。
- ・市としては、自主防災組織だけでなく、横のつながりも重要であると考えているため、自主防災組織をきっかけとして町会・自治会の結成を働きかけることもあり、実際に町会・自治会の結成に繋がった例もある。

ひょうぎいん
評議員

- ・町会自治会連合会の場でも管理組合の名前で自治会を作って、十数棟で連合を作っているところもある。
- ・自分の町会内にも7階建てのマンションがある。各階ごとに班長があり、うち代表1人が町会内の班長の1人として参加している。

ひょうぎいん
評議員

- ・町会のお知らせをたくさん回覧してもらえが、長年住んでいる人が多いため情報が省かれていることが多い。集合場所などが「集会所」というように名前だけだったりすると新し

来た人、外国人などには分かりにくいことがある。多言語化する必要はないかもしれないが、新しい方には、もう少し分りやすくしてくれると外国人も含めて、良いと思う。

評議員

- ・数年前に新しく分譲があったところに勧誘に行ったが、会館の場所などは新しく来た人には分からないので案内をした。地図は必要かもしれない。

評議員

- ・5年ほど住んでいた町会内の集会所の場所を知らず、今年班長になったことで初めて知ったので、そのような対応があるとありがたい。

評議員

- ・以前は、世帯がわかる地図を作成していたが、最近は個人情報問題もあり作成していない。さきほどの例の場合を想定すると、必要なものではある。

事務局

- ・外国人の地域活動には、町会自治会だけでなく八王子国際協会の活動や趣味の活動、子育ての活動などもある。身近にアイデアがあれば、プランの改定の際に町会自治会と別の視点の地域参加についても追記したいため、このような活動があれば望ましいとの意見があれば伺いたい。

評議員

- ・市民参加推進審議会の委員をしていた。そこで議論になったことで、地域活動については町会・自治会単位の話になる傾向があるが、社会との接点という意味では、課題ごとのNPO活動などもある。子育て世代なら、小学生なら小学校PTA、中学生なら中学校PTAなど、状況によって社会との関わりも変わってくる。自分が出来る時に必要なテーマに接点を持つことが大切だという話があった。地縁の活動だけが必要なわけではなく、社会に関わる事が出来る接点を増やしていけるかが大切。外国人市民だからといって、その文化的背景に関連した関わりである必要はない。1人の母親、父親として、または職業人として地域に関わる事が出来れば良いのではないだろうか。そのような接点が、地域との関わりについて考えていくうえで重要である。

評議員

- ・次のテーマの多文化共生意識の啓発について、意見やアイデアはあるか。

評議員

- ・学校の保護者会等の集まりに行く日本人は外国人を相手にもしてくれないという話をよく聞く。多文化共生意識が全然無いのではないのか。

・今行われているイベントなどは、暇な日本人が暇な外国人を呼んで母国の話をさせているだけで遊ばせている気がする。日本人に多文化共生意識を幅広く染み込ませていくことが大事。

評議員

・そのためのアイデアはどうか？

評議員

・実際のシーンとしては、学校と協力し、多文化共生意識を啓発していくことも大切。

評議員

・海外友好交流協定を結んでいる都市の学校との、手紙の交換等のふれあいはあるか？

事務局

・可能性はあるが、現在は交換まではいっていない。以前は読書感想画展をやっていた。同じ本を読んで、その感想を絵で表現するもの。以前は日本を含め、4都市でやっていたが、今は台湾・高雄市だけが残っている。中国・泰安市と韓国・始興市は先方から絵を集めるのが難しいと言われ、無くなってしまった。文章のやり取りはないが、絵を活用したやり取りは行われている。

評議員

・実際にあった例で、早稲田大学の通信の先生が東南アジア内陸部で実験をした。山や谷が多く、一般の携帯電話等は使えない地域において、山間でも比較的つながる電波を使ったネットワークの成果を出した。最後に、現地の小学校と日本の小学校で双方向の通信を行った。実際には、事業上の成果はなかった。なぜかという現地の大学の学生たちは、日頃使い慣れている携帯電話のほかに、山間でも使える別の携帯を持たないといけなくなる。わざわざ2つは持ちたくないとの声がたくさんあり、日本のメーカーも参加していたが、ビジネスとしては成功しなかった。5年くらい前の話である。実験の成果として、一定の効果を見込めたが、一般の携帯電話の電波が整備されるスピードが速く、特別な技術の端末を持つ必要性がなかった。最後の成果は、双方の小学校がそれぞれを紹介しあうことであったとの見解が書いてあった。

評議員

・小学校でも幼稚園でもいいが、海外と交流する機会を作ると良い。みんなタブレットを持っているので、同じ学校にいる外国人の子どもの出身校とインターネットで交流しても良いと思う。友好交流都市と交流をするだけでも、子どもたちが興味を持てば、自分たちで調べられると思う。
・家族間の交流について、ヒップファミリークラブなどには市内小中学校で勉強している子どもも参加しており、様々な交流を持っている。そのような仕組みを市で作れると良いのではないかな。

事務局

- ・来週、ドイツに行くが、八王子高校がドイツの学校と姉妹校提携をしている。なかなか実のある交流が出来ていない。お金がかかるので、簡単には行き来ができない。ご意見のとおり、Skype などでも良いかもしれない。ドイツに関しては、肥沼というゆかりがあることをきっかけに交流をしている。今回でいうと、八王子高校、第六中学校、第三小学校での多層的な交流が出来ないかを検討している。課題となっているのが、8時間の時差であるため、そこを解決する必要がある。

評議員

- ・日本の夕方がドイツの朝なので、調整すれば実施できる。アメリカとやるよりは難しくない。

評議員

- ・交流は大切だと思うが、子どもたちには、保育園や幼稚園のような幼い頃から、世界には色々な人たちが生活をしていることを教えなければならない。肌の色や言葉は違うが人間は平等であるということをおしやればいけない。それを教えていかなないと根本的には解決していかないのではないか。今年、打越中で支援していたが、打越中は色々な国の人がいて、新たに外国人が転校してきても誰も驚かない。子どもたちは慣れてる。このように異文化になれることが大切だ。まずは教育者の意識を変えないといけない。

評議員

- ・教科書は変わってきている。欧米系の絵、写真だけではなく、アジア風のものも活用されている。

評議員

- ・全部作ってあげるではなく、興味を育てるようにする。子どもたちが大きくなっていく中で、自ら調べていくように興味を持たせることが大切ではないか。

評議員

- ・多文化共生というと、弱い立場にいる外国人をどのようにサポートするかという話になりがちだが、日本人の意識を変える必要がある。
- ・外国の文化を理解するというだけでなく、身近に違った考えを持った人がいるということを知っていくことが重要である。
- ・色々な大学で実験をしている。例を挙げると、「修学旅行に行った際の夜の時間に、みんなでお菓子を食べた。A君がトイレに行った際に、B君がA君のお菓子を食べた。」これについて、中国と日本の子どもたちに対する実験をしている。中国人の方はどのように思うか。

ひょうぎいん
評議員

- ・ B君は日本人なのか。それとも中国人なのか。

ひょうぎいん
評議員

- ・ それはどちらでもよくて、そのような状況の時に中国ではどのように思うか。

ひょうぎいん
評議員

- ・ 日本人なら「ありえない」という感覚だろう。中国人なら、「味はどう？」と聞くかもしれない。

ひょうぎいん
評議員

- ・ 中国人の子ども同士であれば、このようなケースでは全く問題にならない。一方、日本では、友達でも人の物を食べるのは良くないということになる。
- ・ この話を中国ですると、なんて日本人はケチなんだ。友達ならお菓子くらい食べても問題ないということになる。
- ・ これはどちらがよい悪いではなく、考え方が違うということ。このように自分とは考え方が違う人がいることを認識することが大切。
- ・ 異文化交流というと、中国については、たいてい民族衣装を着て餃子を食べる。しかし、それだけでは中国人はみんな民族衣装を着て、餃子を食べているイメージになってしまう。
- ・ 文化を理解すること以上に、違った考え方を持った身近な人との共生が重要となってくる。

ひょうぎいん
評議員

- ・ 外国人が日本人に対して「日本人の考え方は狭く、外国人は広い」という話をよく聞く。

ひょうぎいん
評議員

- ・ 社会学者の話がテレビで紹介されたが、時間の観念は全く違う。日本人は団体行動のため、5分前集合が当たり前になっている。ラテンアメリカの社会実験では、45分くらい遅れても問題ない。

ひょうぎいん
評議員

- ・ 1時間遅れることもたくさんある。

ひょうぎいん
評議員

- ・ 同様に別の社会学者がテレビで、時間の概念の異なる民族のことを述べていたのでご紹介したい。次に会う約束に“あす”、“あさって”、“しあさって”まではあるが、“次週の何曜日”という概念はないそうだ。“次の満月の前の日、次の日”と約束すること。

ひょうぎいん
評議員

- ・ そのようにステレオタイプに考えることが問題で、外国人も様々な人がいる。

じむきょく
事務局

- ・ アンケートでは、日本人の考え方や行動パターンを冊子にして外国人に配ればよいのではないかという意見があった。

ひょうぎいん
評議員

- ・ 時間が迫ってきているが、最後に何かあるか。

ひょうぎいん
評議員

- ・ 異文化遭遇のワークというものがある。あらかじめそれぞれのグループに行動の仕方を示しておいて、それをお互いには知らない。そうするとお互いの行動の違いにびっくりする。外国人でなく日本人同士でも考え方や行動の違いを体験することが出来る。小さいうちにそういう体験をするのも良い。
- ・ 中学校では、地理の授業などで各自1つの国について調べて新聞を作る授業をやっている。作ったものを掲示して終わってしまっていることが多いが、それをぜひ八王子国際協会や JICA にコンタクトをとって、その国の人、または行ったことのある人にも話を聞くなど交流する機会を作れば良いと思う。

じむきょく
事務局

- ・ 市内の日本語学校の現状について報告。
- ・ 西八王子駅付近にある東京国際交流学院を訪問した。現在1,200人の学生がいる。3号棟まであり、ここ数年で学生数は3、4倍に増えているとのこと。以前は、中国出身の方が多かったが、今は、ベトナム、ネパール、カンボジア、フィリピン、タイ出身の方が多。学歴は、日本での高卒にあたる方の入学が多い、年齢は18から35歳くらいで平均すると24、25歳くらい。男性のほうが多い。
- ・ 進学については、ほぼ100%進学している。進学先は、大学、大学院、専門学校などがある。
- ・ アルバイトについてだが、学校側に企業から募集依頼がある。学校側から依頼することもある。比較的アルバイトを紹介することが出来ているとのことだった。
- ・ 住居については、近隣に寮がある。退寮後は友達の紹介などで探しているため、困っているとの話はあまり聞かない。

ひょうぎいん
評議員

- ・ 市がヒアリングをしたので良いところばかりの話になっているのかもしれない。学生にも話を聞くことも必要ではないか。

ひょうぎいん
評議員

- ・留学生は、進学できないと留学生ビザの更新ができず帰国せざるを得ないため、進学率100%に近いということは言える。

じむきょく
事務局

- ・最近、専門学校への進学も増えてきている。中国の学生は、漢字が分かるため、比較的、日本語の理解がスムーズであったが、非漢字圏の方は、習得が若干遅いとのこと。

ひょうぎいん
評議員

ほんじつ じかん
本日は時間となったため、以上とする。

5 じむれんらく
5 事務連絡

じかいさいにたい
次回開催日程 10月20日 18時45分から